



木更津市立木更津第二中学校

〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地

☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp

<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年6月23日

No.12/97

校長 山元 竜二

1945年6月23日

木二中学生の皆さん、特に現2年生の生徒たち、6月23日が何の日か覚えているだろうか？昨年6月7日に木更津市在住のファッションデザイナー、鶴田能史さんを本校にお迎えし、平和学習会を実施、同年6月23日に開催された「Pray for Peace Collection 2024 in 沖縄」において掲げられた懸垂幕を学年の仲間と美術部の皆さんで作成しましたね。その懸垂幕には、「子ども達のために平和を願う日に」という文字が記されました。皆さん一人一人、平和への思いを懸垂幕に寄せ書きしたこと、覚えているかと思います。

今日、6月23日は、沖縄県では「慰霊の日」。沖縄守備軍司令官の牛島満大將が自決し、太平洋戦争沖縄戦において日本軍の組織的戦闘が終結した日とされています。確か昨年の平和学習会では、主に沖縄県における戦後の基地負担について多くが語られていたと記憶していますが、そもそも沖縄戦とは何だったのか？その歴史を簡単に紐解いて、改めて6月23日「慰霊の日」を考える機会にしたい。「慰霊の日」は何も沖縄県民だけのものではない、私はそう思っています。

アメリカとの外交ルートによる交渉が決裂した日本は、「大東亜共栄圏」という壮大なスローガンを掲げ、1941年12月、マレー半島・ハワイ真珠湾の奇襲攻撃を皮切りに、翌年春にはフィリピン、インドネシア、ビルマ(現在のミャンマー)など南方を次々に占領し「絶対国防圏」を築き上げていきます。しかし1942年4月には日本本土が初めて空襲に遭い、同年6月にはミッドウェー海戦に日本海軍が敗北、8月、ガダルカナル島の戦いでは、太平洋戦争開戦以来、連戦連勝だった日本陸軍が敗北を喫したことで米軍が反転攻勢、1943年10月、時の総理大臣、東条英機が挙国一体を目指し文部省主催による「出陣学徒壮行会」を開催、東京帝国大学を筆頭に、77校、2万5000人の大学生が軍隊に投入されるも1944年にはサイパン島が、1945年3月には硫黄島が陥落。東京大空襲を経て、同年4月、莫大な兵力をもって米軍が沖縄に上陸、「地獄という地獄をかき集めたような戦場」と言わしめた、地元住民をも巻き込んだ地上戦が始まります。この地上戦では20万人の命が失われ、そのうち、地元住民の犠牲は12万人に上り、当時の沖縄県民の4人に1人が命を落としたことになると言われています。(沖縄県民の犠牲者が15万人に上るといふ研究者もいる。)

米軍上陸前には、沖縄から本土への疎開が始まりましたが、1944年8月21日、沖縄から長崎へ向け出港した「対馬丸」が米軍の魚雷によって沈没。「対馬丸」には、1788名が乗船していましたが、小中学生780名を含む1485名が命を落としました。(沖縄県沖縄市HPより)

沖縄に駐留していた日本兵、約11万人に対して、4月に読谷(よみたん)から北谷(ちやたん)にかけて上陸した米兵は約55万人。圧倒的な兵力差を埋めるために駆り出されたのが、君たちと同年代の中高生たち、「鉄血勤皇隊」(てつけつきのうたい)と呼ばれた14歳～16歳の男子学徒からなる日本軍史上初の少年兵部隊でした。(当時の鉄血勤皇隊の顔写真が現存しています。調べてみてください。皆君たちと同じようにあどけない表情をしています。)

当たり前のようにその若さや経験不足により多くの少年兵たちは命を落とすこととなりますが、彼らは一般兵と変わらない軍服を着用させられ、当初は後方支援が主な任務だったにもかかわらず、戦闘が激化すると通信や伝令、負傷兵の世話、食糧補給など命がけの任務を遂行することになったのだそう。学校の先生や級友たちに別れを告げて軍隊の一員としての生活を強いられた鉄血勤皇隊は、あの有名な「ひめゆり学徒隊」に並んで沖縄戦における悲劇の象徴とされています。想像してみてください。校長である私が、大切な大切な君たち生徒諸君に軍服を着させて戦場に送り出すなんて…。どんな思いで送り出し、少年兵たちはどんな思いで命を落としたのだろう…。現代ではそんなことは絶対にあり得ないとわかっているけど、そうせざるを得なかったときに思いを馳せると、何とも言えない感情に全身が覆われ苦しくなります…。

戦後沖縄は、27年間、日本本土から切り離されて米軍政下に置かれただけでなく、東西冷戦勃発を背景に大規模な米軍基地が建設されました。1972年5月15日に本土復帰を果たし53年目を迎えた今も日本の米軍基地の約70%が沖縄県に集中するという現実が続いています。そして何より、戦争で家族の命を奪われた人の中には、自分が生き残ったことに責任を感じている人がいたり、戦争そのものだけでなく戦後の体験にも苦しみ続ける人々がいたり、土地を強制的に奪われたこと、米軍軍人による犯罪行為に苦しめられていることなどを考えると、戦後80年が経過した今でも第二次世界大戦が残した爪痕は深く、これから先も消えることはないと思われ知られます。戦争という悲劇は二度と繰り返してはならない…、強くそう思います。